

OISA NEWS

OITA
INFORMATION
SERVICE INDUSTRY
ASSOCIATION

2012. 4

56

発行：大分県情報サービス産業協会
会長 森 秀文
<http://www.oisa.jp>
編集：広報委員会
事務局：大分市城崎町2-6-31
(大銀コンピュータサービス(株)内)
TEL (097)537-5918
FAX (097)534-4545
印刷：佐伯印刷株式会社

大分県情報サービス産業協会



CONTENTS

2012年新年例会	2
新年ご挨拶	3
2012年特別講演会	4
平成23年度「技術研究会」発表会開催	5
第20回サウンズコンテスト	
On The Computer 開催	6
社会貢献活動 (別府大分毎日マラソン)	8
平成23年度 第2回視察研修旅行	8

中津城 (中津市)

2012年 大分県情報サービス産業協会 新年例会開催



森 秀文 会長

平成23年度の新年例会が、1月25日（水）に大分市のトキハ会館にて、ご来賓並びに会員企業の皆様多数ご出席の中、盛大に開催されました。

最初に森会長より新年の挨拶がありました。

ご来賓の方々と関係機関及び団体への平素のお礼に続き、昨年3月11日に発生した、東日本大震災の被災者へのお見舞いと、一刻も早い復旧・復興を願うとのお話の後、「辰年」である新年に臨む意気込みと続き、情報サービス産業の環境について、次のようなお話がありました。

今年初めの「日経産業天気図予測」（1～3月分）によると、「情報・通信分野」に「晴れ」はなく、情報分野は「くもり」であり、震災で落ち込んだ企業のIT投資は回復基調にある。中でもクラウドコンピューティングへの需要が強いが、円高や欧州の経済危機への警戒が根強く不透明感が続くとのこと。通信分野は今回一番天気の良い「薄日」であり、予断を許さない状況ではありながらも、スマートフォンとタブレットPCの利用増に伴うデータ通信量の押し上げにより、基地局の整備の加速などから上向きとなっているという内容でした。最後に、今年20回目を迎える「サウンズコンテスト」と、初めての社会貢献活動となる「別府大分毎日マラソン」へのボランティア参加のご紹介で締めくくられました。

引き続き、大分市副市長・磯崎賢治様、九州経済産業局情報政策課長・松谷昭一様、大分県情報政策課長・倉原浩志様のご挨拶を頂戴し、特別講演会へと移りました。本年は、たけうちクリニック院長の竹内小代美様から「イキイキと働くために」という演題でご講演をいただきました。

その後会場を移し、小野理事の乾杯の発声と共に新年祝賀会が開催されました。立食形式での歓談を経て、最後に当協会の高榎理事による挨拶をもって、盛会のうちに終了いたしました。



小野理事挨拶



乾杯風景



懇親会風景



高榎理事挨拶

新年ご挨拶

分県情報サ



大分市副市長
磯崎 賢治 様

皆様、新年明けましておめでとうございます。

さて、本年は、明治44年に大分市が誕生して以来101年目。新しい世紀の幕開けとなる年にあたります。3月17日には大分駅が全線高架化となり、これにより鉄道で分断されていた南北市街地が一つになる都心南北軸が姿を現します。これらについては、県都の顔づくりも着々と進んでおり、本年はこれからの100年に向けての大きな一歩となる年と考えております。

一方、我国に甚大な被害をもたらした東日本大震災は、地方自治体にとって防災対策を根本から見直さなければならない程、多大な影響をもたらしました。

地方自治体は「市民の安全確保」「被災者支援」「企業活動復旧」のため、大きな責務を負っていることは言うまでもありません

が、災害時の業務継続を確保するためには、情報システムやネットワークが稼働していることが、きわめて重要となっております。

また、東日本大震災では戸籍などの住民情報が消失した被災自治体もありました。大分市でも大規模災害時において、同時被災することのない遠隔地でのデータ保管の在り方や、システムそのものの在り方について、早急に検討する必要がありますので、皆様方にも業務継続の観点から、お知恵をお借りできればと考えております。

我国の経済は、先の東日本大震災により計り知れない打撃を被りました。この難局を一日も早く乗り越え、日本再生に向け力強く帆を進めていく必要があります。大分県情報サービス産業協会の皆様は、社会の最重要インフラである情報通信サービスを支えられていることから、経済再生に向けての牽引役となられますよう、心から期待を申し上げます。

最後に、大分県情報サービス産業協会の皆様の今後益々のご発展と、新しい年が皆様方にとりまして、すばらしい一年となりますようお祈り申し上げまして、新春のご挨拶とさせていただきます。



九州経済産業局情報政策課
課長

松谷 昭一 様

皆様、新年明けましておめでとうございます。平成24年の新春を迎え、お喜び申し上げますとともに、大分県情報サービス産業協会の新年例会が、かくも盛大に開催されますことに、心よりお祝い申し上げます。また、昨年の大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、我国の経済は、東日本大震災の復旧復興後の取り組み等において、少しずつ持ち直しの動きが見られますが、「歴史的な円高の進展」「電力供給の制約等の要因」「欧州経済等の要因」等、非常に厳しい状況におかれています。経済産業省としても、このような事態に対応すべく「原子炉事故の収束」「産業空洞化への対応」を積極的に進めています。

コンピュータの高機能化や通信の高速化、あるいは価格の低下等を背景に、ITは産業のみならず私どもの生活に深く浸透して

まいりました。このような変化の中で貴協会は1989年の設立以来、地域情報化の推進や情報サービス産業の振興に多大なる貢献をされてこられました。この取り組みには、私も心から敬意を表します。

近年、我国の情報サービス産業の状況は、「ユーザー企業の人件費単価の抜本的な見直し」「クラウドコンピューティングの進展」「海外への発注等の普及」等から、価格低下圧力が進んでいます。そういった中で、たとえばIT単価についても構造的な単価低下圧力が常態化しており、非常に厳しい状況にあると思います。この厳しい状況下の中で、貴協会におかれましては持ち前の団結力や結束力を発揮し、大分県はもとより九州全体のIT情報サービス産業の振興を牽引していくものと期待しております。九州経済産業局としても、東日本大震災後の我国の経済の復活は、九州経済が牽引するといった意気込みで、さまざまな取り組みを進めていきたいと思っております。

最後に、本年が皆様にとって、輝かしい年になることを心より祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。



大分県商工労働部情報政策課
課長

倉原 浩志 様

皆様、新年明けましておめでとうございます。大分県情報サービス産業協会におかれましては、平素より県政の推進にあたり、多大なるご理解とご協力をいただき感謝しております。

さて、大分県商工労働部では、平成17年度から毎年、大分産業活力創造戦略を策定しています。この策定にあたっては、企業活動や地域経済の活性化、就業支援などを効果的に進めるため、500社を訪問して皆様の声を聞き、指針策定に取り組んでいます。

情報政策課では、この戦略を推進する取り組みとして2つ掲げています。一つは、産業を下支えする意味で、情報通信基盤整備があります。これについては昨年、宇佐市・中津市・豊後大野市・竹田市・由布市等の光ファイバーの基盤構築があります。もう一つは、電子自治体の推進として、大分市をはじめ県内全部の

市町村と一緒に電子自治体の推進協議会を作り、クラウドコンピューティングやケーブルテレビの在り方等の研究をしています。特にこれからは、ネットワークを使ったクラウドコンピューティング、スマートフォンやタブレット等をデバイスとして使うシステム構築等が進んでいくと考えています。

現在策定中の2012年度版の戦略の中では、県内のIT企業の人材を対象に、「技術力や連携力」を強化する新しい取り組みを考えています。経済産業省の調査によると、大分県のソフトウェアの売上高は九州で第三位と、かなり高い地位にありますが、さらに技術力の開発等に支援できればと、今年は新しい取り組みを始めようと思っています。その際は、ご協力をよろしく願います。

また、もう一方で中小企業の生産性向上、競争力強化等にも引き続き積極的に取り組んでいます。今年もITお助け隊やシステム開発費の助成等にも、引き続き積極的に取り組んでいきたいと考えております。

最後に、本日ご列席の皆様の益々のご健勝と会員企業の更なるご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

2012年 特別講演会

演 題：「イキイキと働くために」

日 時：平成24年1月25日(水)16:00～17:30

場 所：トキハ会館 6階 さくらの間

講 師：たけうちクリニック院長 竹内 小代美 様
(さよみ)



竹内 小代美 様

イキイキ元気に働くために、組織人として最も期待される行動は、皆さんの会社では何ですか。上司は部下に何を期待しているでしょう。あるいは、あなたは上司として部下に何を期待しているでしょう。そして部下は期待通りに行動していますか。

ドイツの心理学者クルト・レビンさんは、人の行動は性格と環境で決まると言っています。性格は脳の癖と考え、脳の癖で行動、生理現象、感情が決まります。そして、会社の中ではもうひとつマネジメントが加わります。それと、環境としては組織の風土があります。この組織の風土というのは、その組織固有の物の見方や考え方、批判や意思決定の基準、価値です。皆さんの会社では組織の成員はどのようなもの見方や考え方、批判や意思決定の基準や価値をもっているのでしょうか。それを社員は共有しているのでしょうか。部下は共有しているのでしょうか。それを確認することが大事ですね。それは社内の最初の訓話であったり、目標設定だったり、あるいは日頃の対人関係のコミュニケーションの中で自然に根付いている風土です。そして組織構造として、仕事上の規制・公式手順等の仕組みや制度、これは目に見えるんですが、半分見え隠れするのが前例や慣行や不文律です。これでこの組織の人は、たてまは皆仲良くしましようと言っているんだけど、実は競争しているということが見え隠れするんです。組織内で適切とされる考え方や行動の暗黙のルール、当たり前すぎて意識されないことがない組織内の常識、暗黙の思い込み、信じ込み、役割期待、対人関係、勢力関係等は見えません。これらがずっと一体となってその組織の雰囲気、風土を作っていきます。

健全な組織というのは自分は大切、相手も大切、ということも自己も自立的で相手も自立的で協力していくという対等の姿勢がある意思のときに健全になります。客観的思考ができて、自然な行動ができて、目的達成ができる組織です。ところが自分は優秀、相手は依存的、だから優秀な人にいつも頼っている、答えを聞く、自分で考えることをしない時に、これは過労死型組織になります。上司の言うことを、我慢して努力してがんばって聞く、過労死になりやすいです。それに対して、自分はだめだ、相手がすごいといっているいつも頼っている部下の側からの姿勢で、劣等感がおこりますからこれはうつ型組織で一番うつ病になりやすいです。それから、自分も依存しているし、上司も依存している、なんか結論が全然でない、この会社

活気がない、という会社になってしまいます。だから是非、健全な組織を作っていることが大事ですね。さらに健全な組織では、自尊・他尊、正直に意見交換ができて目標達成に向かって協力します。ところが、これが健全でないと「自分の意見を言うてはならない」「成功してはならない」「余計なことはするな」「重要な存在になるな」というような影のメッセージが出ます。「負けは許されない」「俺が考えるからオマエたちは考えなくてよい」という上司、「強くあらねばならない」「完全でなければならぬ」「疑問や悩みは持つな」というメッセージが入っている組織があります。そしてよくあるのが、強くあれ・完全であれと言いながら、成功するな・急げというメッセージが入っている場合、頑張り・努力せよと言いながら考えるなという組織、仕事は常に丁寧にといいながら早くやらないと間に合わないじゃないか、丁寧にやれよといいながら遅い、急げというような矛盾したメッセージがある、そういうところでは、非常に仕事がやりにくいですね。元気に成長し続ける組織の特徴を見てみますと、何を言っても良い、尊重してもらえると安心感、異論が出るほど新しいアイデアが生まれますので、そういうふうにつまえる前向きな傾向があるか、俺の言うことを聞かない、やりにくいと自分は思っていないか、お互いの不得手のところは仲間がカバーしてくれるという信頼感、失敗は成功のもと、必ず誰かが次につなげてくれるチームワーク、お互いの成功・失敗について皆が学び喜び、悔しさを共有していくということですね。お互いの関心がお互いの成長の原動力になり、さらなる成長意欲につながっている。足を引っ張る人間がないという安心感がある、等が挙げられます。

元気な組織実現のキーポイントは、誰もが大切、誰もが無限の可能性、誰もが成長する、つまり誰もが不完全です。このことをいつも毎日言ってください。そして、成長は気づいて受け入れて目標を確認して行動していく、このことによって起こります。言葉・脳・反応を繰り返せば性格が変わります。私は大分川を4キロ走りますが、最初の頃ちょっと面倒かなと思ったときに、走ることを楽しみます・面白がります・うれしいなど空を見上げていたら、もう5メートルも走らないうちに全然嫌じゃなくなるんですね。お風呂の掃除も面倒だと思ったら、あーお風呂さんありがとう、皆の汗を流してくれてと言っていると「よだきい(めんどくさい)」がなくなるんですよ。使ってください。それから、自尊心を高めるには、目標の明確化、続けられれば成功、失敗は学びのチャンスです。他尊力を高めるのは共感力で、傾聴、違いを尊重、脳をイキイキ使う、身体力・感性・知性、なによりも組織を楽しむ風土があるかですね。そして目指す風土が感じたことを素直に言える環境作り、感じる力は相手の意見を尊重し、気持ちの支援をします。意見を尊重するだけでなく気持ちまで入れるといいです。相手を褒める、ゴマはすらない、相手を褒める私は素敵と思う習慣、1日に3回、人を褒めてください。失敗はステップアップのチャンスです。一緒に考えよう。理性と感性を総動員して一人ひとりが考え行動する組織は、とても元気です。

失敗なんてないので、私の申し上げましたことを一つでも生かしていただいて、前向きに会社が元気になるように、働く皆様も元気になるようにお祈りをして、これからもがんばります。よろしく願いいたします。

(総務委員会)



平成23年度「技術研究会」発表会開催

日時：平成24年2月24日（金）
14：30～17：15

場所：ソフィアホール
（大分第2ソフィアプラザビル）

参加者：120名（21団体）



賀川 経夫氏

技術委員会が主催する平成23年度「技術研究会」発表会が開催されました。

この研究会は、毎年会員各社の中堅および若手の技術者が集まってソフトウェアの技術研究を共同で行うもので、今回で第15回目となります。

今年度は「Android」、「HTML5」、「Hadoop」の3つの研究部会を設けて募集を行い、大分大学大学院生を含めた23名により、部会ごとに具体的なテーマを決めて実際の研究活動を行ってきました。

発表会では、森会長の開会挨拶の後、昨年引き続き産学連携をより深める取り組みとして、大分大学の「研究シーズ」を紹介していただきました。

今回の大学研究シーズ発表は以下のとおりでした。

「拡張現実感を応用した分散型共有作業環境の構築」

大分大学工学部 知能情報システム工学科 助教 賀川経夫氏

拡張現実を具体的な事例を交え分かり易くご説明頂きました。また、休憩時間には会場に設けられたデモコーナーに多くの方が詰め掛け、熱心にデモに見入っていました。



続いて各部会のメンバーより、昨年7月から行ってきた研究の成果発表が行われました。今回の各部会の研究テーマと発表内容は以下のとおりでした。

① Android部会

テーマ：「BlueToothでカメラをリモートコントロール!!～ Androidにおける機器制御の可能性～」

内容：Androidを用いた組み込みソフトウェアの技術動向の調査・検討を行い、実際にAndroidアプリ開発に取り組んだ具体的内容の紹介と考察。

② HTML5部会

テーマ：「HTML5を使ったWebアプリケーション開発～ HTML4.0とHTML5の比較～」

内容：HTML5のメリットおよび作成したアプリのデモを交えながら新仕様の紹介と今後の動向調査。

③ Hadoop部会

テーマ：「Hadoop ? Hadoopを使って分散処理を実践してみよう～ Hadoop環境を構築し分散数により処理速度が上がる事を検証～」

内容：大規模データを効率的に処理できるHadoopを使用した分散処理の実践と今後の可能性の検討。

各部会とも、本務の傍ら十分な時間が取れない中での研究活動であったと思われませんが、いずれも新しい技術動向に対して精力的に研究し、実業務への影響や新たな事業展開の可能性を視野に入れた前向きな取り組み姿勢がうかがわれました。

最後に、清水委員長より講評と謝辞があり、各部会の代表者に対して研究活動の労をねぎらいました。



Android部会



HTML5部会



Hadoop部会

(技術委員会)

第20回
記念

サウンズコンテスト

日時：平成24年1月28日(土) 13:30～17:30
会場：大分市コンパルホール 文化ホール

ON THE COMPUTER



グランプリ受賞者の表彰(熊谷武洋氏)

記念すべき20回目を迎えたサウンズコンテストOn The Computerは、1月28日(土)に大分市の大分市コンパルホール文化ホールで開催されました。

今回の応募曲は95名104曲を数え、その中から厳選なる予選を通過した23曲で本審査を行いました。

今回は20回記念ということでピアニキストの松田昌氏、ピアニストの岩崎大輔氏による特別コンサートが催される事もあり、新聞、テレビ、ラジオの全メディアで取り上げていただきました。来場者は413名を数え、過去最大の盛り上がりとなりました。

宗野
晴彦氏木下
直郁氏平山
拓未氏

望月陽一郎氏

松井
大氏

審査結果

	氏名	年齢	地区	タイトル
グランプリ	熊谷武洋	41	山口県	秋吉台カルストロード駅
フリー曲部門 1位	宗野晴彦	53	大分市	漆黒の天使～D.N.Aの記憶～
フリー曲部門 2位	木下直郁	34	大分市	主の悦び給ふ人にあれ
フリー曲部門 3位	平山拓未	19	神奈川県	night
トリニータ応援歌部門最優秀賞	小迫剛	69	大分市	明日をつかもう
トリニータ応援歌部門優秀賞	ウィヴィ	14～22	豊後高田市	スポットライト
20回記念OISA特別賞	望月陽一郎	48	大分市	My Dearest
審査員特別賞	松井大	23	徳島県	misfortune

今年は例年以上に大変レベルの高い激戦となりました。その厳しい競争を勝ち抜き、みごとグランプリに輝いたのは、山口県の熊谷武洋氏の作品“秋吉台カルストロード駅”でした。

この作品は、作者の出身地である山口県秋吉台がモチーフで、雄大な丘陵地帯を機関車が疾走、天空に向けて飛翔するという壮大な思想で作曲されており、見事な出来栄でした。

トリニータ応援歌

今回も、大分フットボールクラブの後援による「トリニータ応援歌部門」を実施しました。J1復帰に向けての県民の声が届くような元気溢れるメロディーが印象的でした。

最優秀賞に輝いたのは、多田翔太氏が熱唱した大分市の小迫剛氏の作品“明日をつかもう”でした。

この曲は、3月4日（日）に開催されたホームゲーム開幕戦前に大分フットボールクラブへ贈呈され、向こう一年間、大分スポーツ公園総合競技場



トリニータ応援歌贈呈式
青野社長に贈呈

（大分銀行ドーム）で開催される大分トリニータのホームゲームのBGMとして使われることになっています。

観戦に行かれる方は、試合前に流される音楽も是非お聴きください。

最後に、応募曲の編集、会場設営等で大変ご苦勞をおかけしました日本文理大学関係者様、また、今回も多くの後援・協賛をいただきました各社様にも紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。

（イベント委員会）



特別コンサートの様子



小迫剛氏と多田翔太氏



ウィヴィ

審査委員

	氏名	審査歴	備考
審査委員長	田村 洋彦	16回目	大分大学教授（音楽科）・九州作曲家協会会長
審査委員	久保田 栄子	10回目	大分サウンズクリエイター協会 事務局長
審査委員	川村 典	2回目	（社）日本作曲家協会
審査委員	久保田 哲	1回目	NPO法人 おおいたインディーズネット 代表理事
審査委員	津行 孝充	3回目	大分県情報サービス産業協会より 株式会社オーイーシー 総務部長

別府大分毎日マラソン 社会貢献活動初参加



今年より協会の新たな社会貢献活動として平成24年2月5日に行われました別府大分毎日マラソンの給水ボランティア活動に総勢83名が参加しました。

給水場所は2.5Km間隔で計25箇所あり、その内の2箇所、23.5Km地点に41名、38.5Km地点に42名を配置し約1,800名のランナーに対応しました。

初めての給水活動に心配もありましたが、各自手際よく準備を行い、大会役員指導のもと、特に大きな混乱もなく給水活動が実施できました。また、多くの方がランナーの躍動感や懸命な表情に心打たれ、自然と力強い声援や大きな拍手を送っていました。

全国放送のテレビ中継で、有名タレントの参加もあり、伝統と活気のある大会の一員として貴重な体験ができ大変有意義な一日でした。是非来年も継続して参加したいと思います。

(総務委員会)

平成23年度 第2回視察研修旅行

平成23年度第2回視察旅行が平成24年1月20日に参加者21名で実施されました。今回は昭和アルミニウム缶株式会社大牟田工場とLIXIL(リクシル)有明SOLAR POWER(ソーラーパワー)を視察しました。



昭和アルミニウム缶株式会社は、昭和電工のグループ会社です。工場は、全国に3ヶ所あり、その中でも大牟田工場は、最も新しい工場です。昭和アルミニウム缶株式会社は、1969年4月に日本初のアルミ缶製造販売会社として発足し、1971年、当時アメリカで実用化されて間もないアルミ缶にいち早く着目し、その技術を導入して製造を始めました。アルミ缶の製造工程やリサイクルについて、視察説明を受けました。

株式会社LIXILは、2011年4月に、トステム、INAX、新日軽、サンウエーブ工業、東洋エクステリアが統合されて、株式会社LIXIL(リクシル)となりました。今回視察したリクシル有明ソーラーパワー施設は、エネルギー関連事業者(電力会社等)が設置したもの以外では国内最大級の規模で、迫力のある大規模ソーラー施設です。2011年3月から本格稼働しており、太陽光電池出力は、約3.75MW(3,750KW)で、推定発電電力量は、約3,900,000KWh/年です。これは、一般家庭年間約1,000世帯分に該当するそうです。

(企画委員会)

